

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	経済格差と教育格差の長期的因果関係の解明：親子の追跡データによる分析と国際比較
研究代表者	赤林 英夫（慶應義塾大学・経済学部・教授） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、長期的な視点から経済格差と教育格差の因果関係を解明し教育政策に役立てるという課題であり、応募者を中心としたチームには相応の成果を蓄積してきた実績がある。この分野での海外での研究蓄積と比して、日本が立ち遅れているとの認識があり、本研究では、サーベイ調査を通じた親子二代にわたる国際水準のデータベースの構築を目指す。研究計画はしっかりと練られており十分な研究成果を上げることが期待されることから、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p> <p>ただし、基盤研究（S）であることから、単に海外での研究にキャッチアップするだけでなく、日本発の独創的な研究視座の確立や、多様な家族を排除せずにジェンダーの視点にも注意を払うことが望まれる。</p>